

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅣ(Seminar Ⅳ)	授業コード	E002708
担当教員名	板倉 理友		
配当学年	4	開講期	前期
必修・選択区分	必修	単位数	4
履修上の注意または履修条件	経済分析に興味を持っている人が望ましい。		
受講心得	論文の途中報告、中間発表をしてもらいます。		
教科書	地域マクロ経済の分析(現代図書)板倉理友 著		
参考文献及び指定図書	必要な都度指示します。		
関連科目	マクロ経済学、地域経済学		

授業の目的	<p>本ゼミナールでは、現在地域が置かれている経済状況を理解するために、まず基本となる経済の理論・フレームを勉強します。その上で地域に突きつけられている課題を解決するためにはどうすればよいのか、その方策はどんなものがあるのか等々を分析することによって、最終的にマクロから見た地域経済という実態を把握し、卒業論文を作成することを目的としています。ゼミナールⅣでは、卒業論文の作成が主になります。大学生活の勉強の総まとめとして卒業論文の作成を目指します。したがって、本ゼミナールでは学生の個別指導(含論文作成指導)が中心の講義となります。これまでの勉強の成果として、どのように現在の地域が置かれている経済状況を理解したのか、また基本となる経済理論・フレームをどの程度理解したのか、地域に課せられている課題の解決策を見出したかどうか等々の成果を卒業論文にまとめることとなります。</p>
授業の概要	<p>毎回、次週の報告者を決めます。決まった報告者は事前にレポートを作成し、発表してもらいます。最後に、4年間の総括として卒業論文を作成してもらいます。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：履修指導 オリエンテーションと履修指導を行います。	「論文の書き方」の本を読む
第2週：卒業論文の構想 どのような卒業論文にしたいのか、まず書きたい内容を考えます。	「論文の書き方」の本を読む
第3週：卒業論文の構想2 前回に引き続き、内容を考え構想を練っていきます。	「論文の書き方」の本を読む
第4週：仮の論文テーマの決定 構想を練った後、仮の卒業論文のテーマを考えます。	「論文の書き方」の本を読む
第5週：仮の目次の決定 テーマから必要な考えられる目次を検討します。	「論文の書き方」の本を読む
第6週：卒業論文の概要 論文の概要を記述して内容を検討します。	「論文の書き方」の本を読む
第7週：卒業論文の概要2 論文の概要を記述して内容を検討します。	「論文の書き方」の本を読む
第8週：文献調査等 文献の調査や必要によっては野外での調査も行います。	「論文の書き方」の本を読む
第9週：文献調査等2	

文献の調査や必要によっては野外での調査も行います。	「論文の書き方」の本を読む
第10週：文献調査等3 文献の調査や必要によっては野外での調査も行います。	「論文の書き方」の本を読む
第11週：文献調査等4 文献の調査や必要によっては野外での調査も行います。	「論文の書き方」の本を読む
第12週：資料の検討 収集した調査資料を検討します。	「論文の書き方」の本を読む
第13週：資料の検討2 収集した調査資料を検討します。	「論文の書き方」の本を読む
第14週：資料の検討3 収集した調査資料を検討します。	「論文の書き方」の本を読む
第15週：卒業論文のテーマと目次の決定 収集資料等をもとにして、論文内容を考えテーマと目次を正式に決定します。	「論文の書き方」の本を読む
第16週：卒業論文の執筆(序論) 具体的な執筆活動に入っていきます。	論文の流れが論理的か検討
第17週：卒業論文の執筆(序論)2 具体的な執筆活動に入っていきます。	論文の流れが論理的か検討
第18週：卒業論文の執筆(序論)3 具体的な執筆活動に入っていきます。	論文の流れが論理的か検討
第19週：卒業論文の執筆(本論) 具体的な執筆活動に入っていきます。	論文の流れが論理的か検討
第20週：卒業論文の執筆(本論)2 具体的な執筆活動に入っていきます。	論文の流れが論理的か検討
第21週：卒業論文の執筆(本論)3 具体的な執筆活動に入っていきます。	論文の流れが論理的か検討
第22週：卒業論文の執筆(本論)4 具体的な執筆活動に入っていきます。	論文の流れが論理的か検討
第23週：卒業論文の執筆(本論)5 具体的な執筆活動に入っていきます。	論文の流れが論理的か検討
第24週：卒業論文の執筆(結論) 具体的な執筆活動に入っていきます。	論文の流れが論理的か検討
第25週：卒業論文の執筆(結論)2 具体的な執筆活動に入っていきます。	論文の流れが論理的か検討
第26週：仮の卒業論文完成 卒業論文を一応完成させます。	論文の流れが論理的か検討
第27週：卒業論文の修正1 完成させた卒業論文に間違いはないか、論理的か、正確化等々、形式的・内容的に検討を行います。	論文の流れが論理的か検討
第28週：卒業論文の修正2	

完成させた卒業論文に間違いはないか、論理的か、正確化等々、形式的・内容的に検討を行います。		論文の流れが論理的か検討
第29週：卒業論文の修正3 完成させた卒業論文に間違いはないか、論理的か、正確化等々、形式的・内容的に検討を行います。		論文の流れが論理的か検討
第30週：卒業論文の完成 卒業論文を完成させ、提出します。		論文の流れが論理的か検討
第31週：期末試験 試験はありません。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①文章を書くことに興味を持つ。
【知識・理解】	②論文の構成についての知識、理解ができている。
【技能・表現・コミュニケーション】	③自発的に発表ができる。 ④コミュニケーションができる。
【思考・判断・創造】	⑤文章を正確に、論理的に書くことができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			20点	
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。		20点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			20点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		40点		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	卒業論文は、自分なりの視点でまとめられているか、論理的な誤りはないか、卒業論文の形式に沿っているか等で評価します。
発表・その他 (無形成果)	論文を発表するときには、分かりやすく言うことができているかどうか、プレゼンとしてよいかどうか等で評価します。